

バリアフリー新法における公園づくりに関する研究 ―小金井市をモデルとして―

日本大学理工学部社会交通工学科 正会員 江守 央
日本大学理工学部社会交通工学科 学生会員 ○山田 啓太

1. はじめに

平成 18 年 12 月に交通バリアフリー法とハートビル法が一体化したバリアフリー新法が施行された。これにより、従来の鉄道駅等の旅客施設を中心とした地区における基本構想の策定に加え、建築物、路外駐車場、公園施設も含めた地区における基本構想の策定が可能となった。

特に、公園施設は一つの都市と捉えることができ、その魅力あるいは機能は多様化している。また、時間帯や平日・休日によって変化する利用者や、道路や鉄道駅といった交通施設とは異なる点が多いと考えられる。現在、バリアフリー新法への改正後に基本構想策定が進められている自治体では、公園に限って見ると比較的小規模の公園を取り扱っている事例が多く、例えば市町村にまたがって存在する公園等の対応については、基本構想内での対応が不可能であるという問題がある。

このように基本構想策定において公園施設が重点整備地区として具体的に選定された事例がないことから、計画段階から市民等の参加の促進を図ることがより一層求められると考えられる。

2. 小金井市の事例

現在、小金井市においては、JR 中央線の連続立体交差事業により、武蔵小金井駅南口の再開発事業、東小金井駅北口の土地区画整理事業など様々な事業が進行している。この一体的なまちづくりを進める上でも、高齢者、障がい者の移動環境をバリアフリー化することは課題であり、大きな機会でもあると言える。さらに敷地規模の大きい都立小金井公園は、その大部分が小金井市に位置し、鉄道駅等から徒歩圏にないことやアクセスを自家用車に依存している等の交通の問題を抱えている。

これらを踏まえ、小金井市ではバリアフリー新法に基づき、小金井市における高齢者、障がい者等の移動環境のバリアフリー化を目的に、平成 18 年 6 月に協議会が設置され基本構想の策定が進められている。

3. 研究目的

小金井市の基本構想における重点整備地区の候補として、武蔵小金井駅周辺地区、東小金井駅・新小金井駅周辺地区、都立小金井公園周辺地区が挙げられている（図-1）。バリアフリー新法施行によって、都立小金井公園は生活関連施設として特に重点的かつ一体的な移動等円滑化を推進する必要がある地区として候補とされている。これらの地区を対象に、住民参加を推進する方法の一つであるワークショップが行われた。

そこで本研究では、（仮称）小金井市交通等バリアフリー基本構想策定のワークショップに参画し、そこで得られたこれまでの旧法の対象である鉄道駅・道路施設と新法から対象となった公園施設に対する参加者の意見の違いを比較し、バリアフリー新法施行後の基本構想策定あるいはその後の継続的活動に必要な視点と課題を抽出することを目的とする。

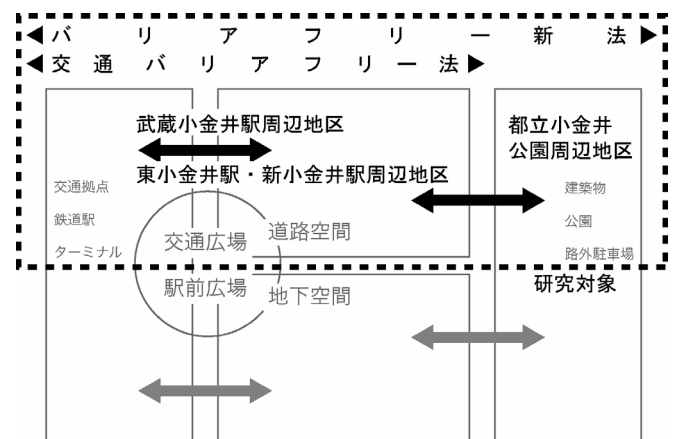


図-1 法律の範囲とワークショップ対象地区

キーワード 市民参加 バリアフリー新法 公園

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 日本大学理工学部社会交通工学科

T E L 047-469-5503 E-mail : emori@trpt.cst.nihon-u.ac.jp

4. 意見集約と比較結果

基本構想策定協議会のプログラムとして実施されたバリアチェックのワークショップで得られた参加者の意見を鉄道駅・道路施設と公園施設を項目ごとに分類し整理した（表-1）。それぞれの意見がバリアフリー新法の基準内で対応できるものかを、またハード面、ソフト面に対する意見かをまとめ、比較すると図-2 のようになった。鉄道駅・道路施設に対する意見では、約95%が法律によって基準が定められているが、公園施設に対してはバリアフリー新法の基準内で対応できない意見が約20%見られた。例えば、公園内の自転車通行については自動車と違い、自転車個別の基準がないため、さらなるガイドライン等の必要性が求められる結果となった。その他特筆すべき事項と対応方法を表-2 にまとめた。また、鉄道駅・道路施設の意見がハード面に偏っているのに比べ、公園施設の意見では約40%が案内・誘導等のソフト面に対するものであった。これは、利用者にとって広大な敷地がバリアにもなり得ることが明らかとなった。

一方で都立小金井公園は敷地が小金井市・小平市・西東京市・武蔵野市の4市にまたがっていることや管理・運用は東京都が担っていること等、行政同士の協働・連携の必要性も運用面として明確となった。

5. 考察

基本構想策定協議会のプログラムとして実施されたワークショップでは、バリアチェックの範囲が限られていた上に、公園には「防災」の視点が重要である等の基準内での対応が難しい事項が多く存在した。そこで、改めて都立小金井公園のみを対象に参加者を募りワークショップを企画した（表-3）。

内容は平成15年度から都立小金井公園で進められている敷地全体を範囲とした「防災公園基本計画」のルートを対象にバリアチェックを行った。参加者には公園に設定されている避難入口から避難経路、避難スペースへの連続的な経路を防災とバリアフリーの両面から問題抽出し、討議を実施した。

6. まとめ

以上、基本構想策定において重点整備地区の候補として挙げられた大規模公園周辺地区は、基準内のみで対応できない事項について補足的にワークショップを実施し、対応策や新しい問題点を模索した。公園施設は一般に余暇を楽しむ空間であるだけでなく、防災機能といった非日常的な側面もあることから、市民にとって生活上の重要な位置づけであり、他の交通施設や建築とは異なりバリアフリーの観点からだけでなく、防災・運用のシステムづくり等の整備との連携が必要と考えられる。

表-1 参加者の意見整理の例（公園施設の場合）

施設	項目	意見	法律	ハード	ソフト
都立小金井公園	案内・誘導	音声式案内板を設置してほしい。	☒	☒	☐
		案内板を見やすくし、触知度も確保してほしい。	☒	☒	☐
		トイレ、体育館等の場所が分かりにくい。	☒	☒	☐
	園路	案内板に照明がない、手が小さい。	☒	☒	☐
		案内板の位置が高く車イスの人や手帳から見づらい。	☒	☒	☐
		旗にもわかりやすいサイン設置を検討してほしい。	☒	☒	☐
	園路	視覚障害者誘導用ブロックが壊れているため使いにくい。	☒	☒	☐
		視覚障害者誘導用ブロックは最低限出入口（バス停や歩道）から初期の施設（管理室や直近トイレ等）側溝のグレーディングに結束の時期は目印の線でも立てるといいのでは。	☒	☒	☐
		舗装がデコボコして移動しづらい。	☒	☒	☐
	園路	歩行者専用道路の設置してほしい。	☒	☒	☐
		園路沿いの街路灯を増やしてほしい。	☒	☒	☐
		歩車道境界に設置された車止めの高さを高くして目立つようにしてほしい。	☒	☒	☐
	駐車場	車イスで園路から各広場へアクセスできるようにしてほしい。	☒	☒	☐
		園路から駐車場へアクセスするスロープの勾配が急なため改善してほしい。	☒	☒	☐
		駐車場のトイレのマークが小さくて判りにくい。	☒	☒	☐
	トイレ	障害者対応駐車場を総合体育館等から近い場所に設置してほしい。	☒	☒	☐
		駐車場出入口の車止めの間隔が狭すぎるため改善してほしい。	☒	☒	☐
		グレーディング（排水溝）の設置が本来的に必要のものを交換してほしい。	☒	☒	☐
都立小金井公園	休憩場所	トイレ施設の設置場所を考えてほしい。	☒	☒	☐
		トイレの入り口が狭く、車ももう少し広いといい。	☒	☒	☐
		狭い広場のベンチが少ない。	☒	☒	☐
	体育館	もったいない広場がある広場が必要。	☒	☒	☐
		ベンチ等の休憩設備を増やしてほしい。	☒	☒	☐
		休憩設備が少ない。	☒	☒	☐
	交通	体育館の前面が整備不足で奥まで見えない。	☒	☒	☐
		体育館出入口での靴の履き替えに際しては無理な人がいるので椅子を置いてほしい。	☒	☒	☐
		玄関のスロープが急すぎるのとコンクリートが硬化している。	☒	☒	☐
	防災	総合体育館を土足も良いこととしてほしい。	☒	☒	☐
都立小金井公園	交通	コミュニティバスのバス停を園内に設置してほしい。	☒	☒	☐
		通勤バスと自転車の通行を分離してほしい。	☒	☒	☐
		通勤バスと自転車の通行を分離するなどルールづくり検討が必要。	☒	☒	☐
	防災	災害時に備えて水・食料・おむつ・薬の案内がほしい。	☒	☒	☐
		イベント時等トイレの数が少ない。広域避難時のためにも必要。	☒	☒	☐
		イベント時等トイレの数が少ない。広域避難時のためにも必要。	☒	☒	☐
	設備	公共電話の数が少なく、車イス非対応。	☒	☒	☐
		公共電話の数が少なく、車イス非対応。	☒	☒	☐
		ゴミ箱の位置が高く捨てにくい。	☒	☒	☐
都立小金井公園	鉄道駅・道路施設	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☒	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☒	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☒	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☒	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☒	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☒	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☒	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☒	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☒	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☒	☐

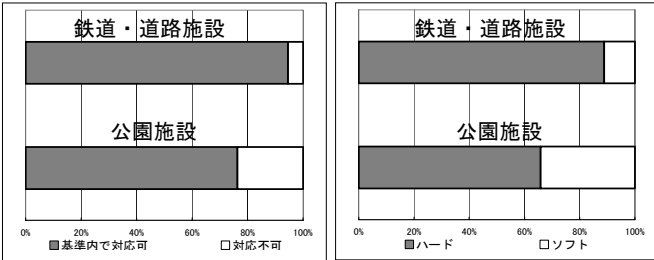


図-2 参加者の意見比較

表-2 特筆すべき事項と現状での対応

施設	項目	意見	短期	中期	長期	ガイドラインづくり
公園施設	建物	体育館入り口での靴の履き替えに際しては無理な人がいるので椅子を置いてほしい。	☒	☐	☐	☐
		一体育館職員をサポートにより対応可能	☒	☐	☐	☐
		総合体育館を土足も良いこととしてほしい。→早期対応可能	☒	☐	☐	☐
	交通	バイクの乗り入れ等違反が目立つ。→車いす利用者との関係として大きな問題	☐	☐	☐	☒
		コミュニティバスのバス停を園内に設置してほしい。→バス事業者との協議が必要	☐	☒	☐	☐
		歩行者と自転車の通行を分離してほしい。→ルールづくりの検討が必要	☐	☐	☐	☒
	防災	災害時に備えて水・食料・おむつ・薬の案内がほしい。	☐	☒	☐	☐
		イベント時等トイレの数が少ない。広域避難時のためにも必要。	☐	☒	☐	☐
		イベント時等トイレの数が少ない。広域避難時のためにも必要。	☐	☒	☐	☐
	設備	公共電話の数が少なく、車イス非対応。	☒	☐	☐	☐
都立小金井公園	鉄道駅・道路施設	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☐	☐	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☐	☐	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☐	☐	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☐	☐	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☐	☐	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☐	☐	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☐	☐	☐
		自動販売機を、障害者対応のものにして欲しい。	☒	☐	☐	☐
		車イス対応の電話ボックスに変更してほしい。	☒	☐	☐	☐
	設備	バスネットやスライなどの非設置ICカード改札機を導入してほしい。	☒	☐	☐	☐

表-3 ワークショップの概要

ワークショップの概要			
日時：2007年12月8日(土) 13:00~17:00			
場所小：金井市総合体育館			
参加者：スタッフ13人 市民7人 計20人(2グループ、協議会委員を含む)			
(内訳：肢体障がい者2人 高齢者4人 精神障がい者1人)			
第0フェーズ	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
防災についての講義 (東京都西部公園緑地事務所 工事課より)	各グループに分かれてバリアチェックを行う。	各グループに分かれて、バリアチェックをもとに意見交換を行う。	各グループのサブファシリテータによってまとめた意見を発表し、今後の方向性について決める。